

第12-1表 設置場所の環境状態と適応感知器

設 置 場 所			適 応 感 知 器										備 考
環境状態		具 体 例	差動式スポット型		差動式分布型		補償式スポット式		定温式		熱アナログ式スポット型	炎感知器	
			1種	2種	1種	2種	1種	2種	特種	1種			
規則第二十三条第四項第一号ニ（イ）から（ト）及び同号ホ（ハ）までに掲げる場所	じんあい、微粉等が多量に滞留する場所	ごみ集積場、荷捌所、塗装室、紡績、製材、石材等の加工場、荷造場、梱包場、仕切場、仕分場、製粉場、製綿場、精米場、リネン室、じんかい室、集じん室、石炭庫、その他これらに類する場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1 差動式分布型感知器を設ける場合は、検出部にじんあい、微粉等が侵入しない措置を講じたものであること。 2 差動式スポット型感知器又は補償式スポット型感知器を設ける場合は、じんあい、微粉等が侵入しない措置を講じたものであること。 3 定温式感知器を設ける場合は、特種が望ましいこと。 4 紡績・製材の加工場等火災拡大が急速になる恐れのある場所に設ける場合は、定温式感知器にあつては特殊で公称作動温度75℃以下のもの、又は熱アナログ式スポット型感知器にあつては火災表示に係る設定表示温度を80℃以下にしたものが望ましいこと。
	水蒸気が多量に滞留する場所	蒸気洗浄室、脱衣室、湯沸室、消毒室、抄紙工場、サイダー・ビール・牛乳・ジュース工場の洗浄又は充てん場等、その他これらに類する場所	×※	×※	×	○	×	○	○	○	○	×	1 差動式分布型感知器又は補償式スポット型感知器は、急激な温度変化を伴わない場所に限り使用すること。 2 差動式分布型感知器を設ける場合は、検出部に水蒸気が侵入しない措置を講じたものであること。 3 補償式スポット型感知器、定温式感知器又は熱アナログ式スポット型感知器を設ける場合は、防水型を使用すること。
	腐食性ガスの発生する恐れのある場所	メッキ工場、バッテリー室、污水处理場、その他これらに類する場所	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	1 差動式分布型感知器を設ける場合は、感知部が被覆され、検出部が、腐食性ガスの影響を受けないもの又は検出部に腐食性ガスが侵入しない措置を講じたものであること。 2 補償式スポット型感知器又は定温式感知器又は熱アナログ式スポット型感知器を設ける場合は、腐食性ガスの性状に応じ、耐酸型又は耐アルカリ型を使用すること。 3 定温式感知器を設ける場合は、特種が望ましいこと。

厨房その他 正常時に おいて煙が 滞留する 場所	厨房室、調理室、仕込 場、溶接作業所、ゴミ 焼却室、霊安室、その 他これらに類する場 所	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	厨房、調理室等で、高湿度 となる恐れのある場所に設 ける感知器は、防水型を使用 すること。
著しく高温 となる場所	乾燥室、殺菌室、ボイ ラー室、鋳造場、鍛造 場、圧延場、映写室、 スタジオ、サウナ室及 び熱交換室、照明室、 貯湯そう室、その他こ れらに類する場所	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	
排気ガスが 多量に滞留 する場所	駐車場、車庫、車路、 自家発電室、トラック ヤード、荷物取扱所、 エンジンテスト室、自 動車修理工場、自動車 ターミナル、屋内自動 車教習所、艇庫、その 他これらに類する場 所	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	熱アナログ式スポット型感 知器を設ける場合は、火災表示 に係る設定表示温度は60℃以 下であること。
煙が多量に 流入するお そのある 場所	配膳室、厨房の前室、 厨房内にある食品 庫・ダムウエーター・ 事務室・休憩所及び控 室、飲食店の客室、厨 房周辺の廊下及び通 路、食堂、給食室その 他これらに類する場 所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	1 固形燃料等の可燃物が収 納される配膳室、厨房の前室 等に設ける定温式感知器は、 特種のものが望ましいこと。 2 厨房周辺の廊下及び通路、 食堂等については、定温式感 知器を使用しないこと。 3 2の場所に熱アナログ式 スポット型感知器を設ける 場合は、火災表示に係る設定 表示温度は60℃以下である こと。
結露が発生 する場所	スレート又は鉄板で 葺いた屋根の倉庫・工 場、パッケージ型冷却 機専用の収納室、密閉 された地下倉庫、冷凍 室の周辺、鮮魚加工 室、ポンプ室、水槽室、 その他これらに類す る室	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	1 補償式スポット型感知器、 定温式感知器又は熱アナロ グ式スポット型感知器を設 ける場合は、防水型を使用す ること。 2 補償式スポット型感知器 は、急激な温度変化を伴わ ない場所に限り使用すること。
火を使用す る設備で火 災が露出す るものが設 けられてい る場所	ガラス工場、キューポ ラのある場所、溶接作 業所、厨房、鋳造所、 鍛造所等	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	

注 1 ○印は当該場所に適応することを示し、×印は当該設置場所に適応しないことを示す。

2 設置場所の欄に掲げる「具体例」については、感知器の取付け面の付近（炎感知器にあっては公称監視距離の範囲）が「環境状態」の欄に掲げるような状態にあるものを示す。

3 差動式スポット型、差動式分布型及び補償式スポット型の1種は感度が良いため、非火災報の発生については2種に比べて不利な条件にあることに留意すること。

4 差動式分布型3種及び定温式2種は消火設備と連動する場合に限り使用できること。

5 省令第23条第5項第6号の規定による地階、無窓階及び11階以上で、省令第23条第4項第1号ニ（イ）及び

(ホ)に掲げる部分は、政令第32条を適用して規則第23条第6項第1号に規定する高感度の熱感知器を設けることができること。

- 6 多信号感知器にあっては、その有する種別、公称作動温度の別に応じそのいずれもが表により適応感知器とされたものであること。
- 7 ※印の該当場所には、差動式スポット型感知器（防水型）の設置が可能であること。